

(準備研究)

現代中国語における敬語体系に関する語用論的研究： 疑問文に焦点を当てて

宮本大輔*

Daisuke MIYAMOTO

研究実績の概要

[研究の背景]

本研究は、現代中国語における敬語体系に関する語用論的研究の一部である。

現代中国語には、いくつかの語彙的なものを除いて、敬語は存在しないというのが一般的な見方である。だが、筆者は中国語にも敬語に類する表現があると考え、近年研究を進めている。その成果の一部として以下の論文をまとめた。この論文は、現代中国語における語気助詞の使用傾向について議論したものであり、中国人母語話者は一部の語気助詞、即ち“啊、呢、嘛”を受話者との間に存在する上下関係やウチ・ソトの関係により使い分けていること、語気助詞“啊、呢、嘛”を使用するか否かが、聞き手との距離感の調節や、聞き手への敬意を表す役割を果たす会話スタイルの一つとして使われていることを明らかにした。

「人間関係から見る語気助詞“啊、呢、嘛”の使用—『新上海灘』を例として—」『長野大学紀要』第37巻第1号, pp. 17-26 (平成27年7月31日)

[具体的内容]

上記の成果を踏まえて、本研究では現代中国語の疑問文に焦点を当て、発話者と受話者の関係による疑問文の使用傾向の違いを明らかにすることを目的としている。現代中国語には基本的な疑問形式の文が5つ存在する。諾否疑問文、反復疑問文、疑問詞疑

問文、選択疑問文、省略疑問文である。また、これに加えて、文のイントネーションを上昇調にすることにより疑問の意を表すもの(以後、イントネーション疑問文とする)と反語文¹⁾がある。このうち、諾否疑問文と反復疑問文は、共に相手が「はい」か「いいえ」で答えられる疑問文であり、文型は異なるものの、表す意味は同じだとされている。また、イントネーション疑問文は文法化されていないものの、これらと同様に疑問の意味を表す。筆者は自らの中国語使用経験と中国の小説を読み、ドラマを見てきた直観から、三者の間に日本語の敬語と所謂ため口のような違いがあるという仮説をたて、検証することを試みた。調査対象としたのは、中国のテレビドラマ『新上海灘』である。このドラマを調査対象としたのは、人間関係が明確に描かれているため、上下関係や友情関係、恋愛関係といった外的要素が言語使用に及ぼす影響を確認しやすいためである。

『新上海灘』にある9961の台詞(1つの台詞は1~16文)からは、3066の疑問文が抽出された。本研究では、発話者と受話者の人間関係がはっきりしている諾否疑問文:247例、反復疑問文:143例、イントネーション疑問文:350例を対象として、発話者と受話者の人間関係によって、その使用傾向にどのような違いが見られるかを分析した(表1)。表1を見ると、発話者と受話者の人間関係により、疑問文の使用傾向には次のような違いが見られた。(1)反復疑問文とイントネーション疑問文は、上下関係では上司→部下、そして対等関係では親友間(男)、友人間、

*環境ツーリズム学部助教

表 1 会話参加者の人間関係による疑問文使用数の分布

	項目	諾否	反復	イントネーション
上下関係	上司→部下	23	23	49
	部下→上司	8	16	34
	側近→トップ	1	13	19
	側近以外の部下→トップ	7	3	15
	親→子	7	5	28
	子→親	7	11	11
対等関係	恋人間	75	12	41
	男性→女性	18	5	14
	女性→男性	57	7	27
	親友間 (男)	28	25	42
	親友間 (女)	22	11	26
	元同級生間 (男⇄女)	30	4	17
	男性→女性	6	0	9
	女性→男性	24	4	8
	友人間 (男⇄女)	32	15	34
	男性→女性	4	1	4
	女性→男性	28	14	30
	相互利用 (男)	5	6	27
	敵対関係	10	15	41

敵対関係で諾否疑問文よりも多くの使用が確認された。このことから、反復疑問文とイントネーション疑問文は、社会的地位の高い者には使用しにくい表現であることが分かる。(2) 諾否疑問文は、上下関係では側近以外の部下→トップ、対等関係では女性→男性である場合に他の二つの疑問文よりも多く使用されていることから、比較的規範的な表現であると言える。

本研究では調査対象を1つのテレビドラマに絞ったため、本研究で得られた結果の普遍性については、更なる検証を重ねる必要があるが、外部資金の応募に向けた準備研究としては十分な成果が得られたと考えている。

[意義と重要性]

現在の高等教育機関における中国語教育では、文法の習得という面に重点が置かれており、会話ストラテジーまでは考慮されていない。また、テキストや参考書の記述も文法的な解釈にとどまっている。そのため、本研究で取り上げた諾否疑問文と反復疑問文は、全く同じ意味を表す疑問文として、かなり

早い段階で学習者に教授される。だが、実際には諾否疑問文と反復疑問文には、文法化されていない、発話者と受話者の人間関係による使い分けが存在している。本研究をより深化させ、その普遍性を立証することができれば、現在日本で行われている中国語教育に対して重要な意義を持つと考えられる。

注

- 1) 現代中国語の反語文には、文型としては諾否疑問文、疑問詞疑問文、イントネーション疑問文のものがある。単純な疑問文ではないため、本研究では単純な疑問文とは別に集計した。

研究発表

雑誌論文

1. 宮本大輔「人間関係から見る語気助詞“啊、呢、嘛”の使用—『新上海灘』を例として—」、長野大学紀要、第37巻第1号、2015年7月、pp.17-26